

～ 昨日の風 明日の風 ～
**経営コンサルタント
 独白録**

[第70回] 昭和は遠くなりけり



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、(株)経営改善支援センター(福岡市、URL <http://sien.co.jp/>) 代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家として、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

ある日の夜、NHKのニュースを見終わり、何気なく次の番組を流していたら、突然「働き方改革」で失われる国民の収入の金額が画面に現れました。その金額は5.6兆円!! (みずほ総研)。

番組自体は、住宅ローンを組んだ人々が残業代をもらえなくなり、ローン返済にその残業代まで含んで計画を立てていたため経済的に破綻に瀕しているというものでした。思った値段で売却ができなかったり、競売にかかったりする事例もあるようでした。

従来働く意思さえあれば手に入れていたはずの収入が、国の規制によって手に入らなくなったという皮肉な現実です。

勤勉の意味と本質

小学5年生の時の担任は「兵隊」上がりで厳しい先生でしたが、彼は折に触れて子供たちにこう語りました。「日本は資源のない小さな島国だ。その島国で生きていく上で最も大切な事は勤勉さだ。このことを忘れたら国が滅ぶ。君らは一生懸命働かなければならない!」。

私の親よりも年上の先生でしたから「大正」生まれだったのでしょうか。しかし物事の本質として、最近では誰も言いませんが、日本は確かに資源国ではありません。その事は今も昔も変わりません。

米国と中国が情報通信分野で覇権を争っていますが、両国とも資源国です。GDPでは韓国とほぼ同じ水準のロシアが世界第2位の軍事大国である理由はやはりロシアが資源国だからです。資源国ではない日本が、大国の真似をしたらかつての私の担任が叫んだように、国が滅びます。

働き方改革で失われるとされる5.6兆円は日本のGDPの1%に相当します。5.6兆円もの国民の収入が失われるとすれば、国内消費はますます低迷することになるでしょう。働きたくても働けないという環境を作り出す政府や官僚はどこかで何かを間違えているのかもしれませんが。

勤勉とは何か?

日本人は本当に働かなくなりました。国の定める祝祭日の日数は世界で最も多く、労働時間はイタリア人やアメリカ人以下になりました。政治家やメディアが貧困を語る時、その背後にある勤勉さを失いかけた風土も語るべきではないかと考えたりします。

「勤労」とは、心身を労して仕事にはげむことですが、最近めったにその言葉を聞かなくなりました。「勤労感謝の日」もまた祝日という皮肉な風景も見えてきます。

さて、我々は何と向かい合わなければならないのでしょうか? 何と戦わなければならないのでしょうか? 世代間格差、地域格差、業種間格差、個人の意識格差、組織格差…。時代変化の中で価値観も変化します。第二次世界大戦が終わって70年以上平和な時代が続き、わが国はいよいよ成熟の時代を越えて、爛熟の時代を迎えているのかもしれない。価値観の多様化が進む中で、今一度自分たちの所属する組織の存在理由や組織の原理原則を問い直さなければならない時代に入っています。

巨人たちの肩

昭和という時代は64年続きました。平成は31年です。そして新しい元号が始まりました。昔の話をするとなりの若い人たちに笑われる、ということは充分承知の上で、なおかつ古い話をしなければなりません。

「私が遠くを見ることができたのは、偉大な巨人たちの肩に乗っていたからだ」とはアイザック・ニュートンの言葉です。

確かに昭和は遠くなりました。しかし「自分たちの身は自分たちで守る」という大原則はどんな時代になっても変わるものではありません。人の言葉に惑わされることなく、真摯に自分の人生と組織の未来を考える必要があります。